



「天下再興の戦いと安見氏」 将軍暗殺!畿内混乱!

第4回は、私部城を巡って戦った織田信長と松永久秀が関わる戦乱について紹介します。
問い合わせ 社会教育課文化財係 (TEL 893・8111)

古文書から見た 戦国合戦

～私部城を巡る攻防～

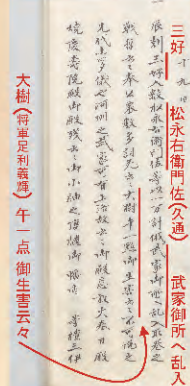


十三代将軍足利義輝の 暗殺と天下再興の戦い

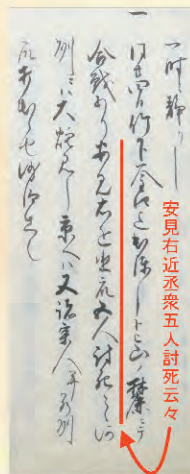
永禄初期の頃、三好長慶をはじめとする三好氏が、畿内地域の権力を握り、久秀はその家臣として活動していました。しかし、永禄7年(1564)、長慶が死去すると、幕府が勢力を回復していきます。

三好氏の重臣である三好三人衆は、これに危機感を抱き、永禄8年5月19日、久秀の息子久通らと共に将軍足利義輝を殺害しました(言継卿記)。この事件により全国的に反三好の動きが活発になります。

河内国の守護である畠山氏は、同年6月に各地の大名に「天下御再興」と称して出陣を呼びかけました。また、三好方の中でも、久秀や長慶の後の当主義継が、三好三人衆と対立して畠山氏につき、両者は互角の戦いを続けていました。
そんな混乱の中、信長が義輝の弟である義昭を、将軍にするために連れて京都を訪れたことにより、この戦乱は、信長の勝利という形で収束しました。



『言継卿記』
(国立公文書館蔵)
永禄8年(1565)5月19日条



『多聞院日記抄』
(国立公文書館蔵)
永禄8年10月24日条

安見氏の活躍

私部城主安見右近の親族に、安見宗房という人物がいます。宗房は、畠山氏の家臣として活躍し、天下再興の戦いの際、越後の上杉謙信に書状を出すなど、外交役を担っていました。

また、右近は天下再興の戦いに呼応する形で、奈良県で反幕府勢力との戦いに出陣したと、「多聞院日記抄」に書かれています。右近はこの戦いでの奮闘が認められ、久秀の家臣となり信長方での地位を向上させることになりました。



三好義継像
(京都市立芸術大学蔵)



足利義輝像
(京都市立芸術大学蔵)

畠山氏と上杉氏

畠山氏は、室町幕府と上杉氏との間で情報伝達や交渉の橋渡し役となっており、もともと上杉氏と深い関係にありました。
その両者間で直接の交渉役となれば、相当の実力と信頼がなければ務まりません。安見宗房が畠山氏の中で有力な家臣であったことが伺えます。



上杉謙信肖像画
(米沢市上杉博物館蔵)

大阪北部地震につきまして

6月18日に発生しました大阪北部地震につきまして、被害にあわれた市民の皆様へ、心からお見舞い申し上げます。
交野市においては、地震発生後速やかに災害対策本部を設置し、市内巡回パトロールなどによる被害情報の収集を行うとともに、学校施設をはじめとしたブロック塀等の公共施設・通学路等の安全確認などの災害対応と、引き続きの余震警戒、土砂災害警戒に全庁あげて取り組んでおります。
災害はいつ発生するか分かりません。災害時、市民の皆様におかれましては、まず、ご自身並びにご家族の皆様のご安全を第一に行動し、十分にご注意いただきますようお願いいたします。

交野市長 黒田 実

